

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 中山間地振興課
	氏名	課長 太田 伸二

政策	4 多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します
----	------------------------------------

施策	1 地域資源を活かした新しい産業の創出
----	---------------------

施策の目的	地域が主体となった新しい事業をおこし、地域の維持と振興に貢献し、延いてはオクシズへの移住促進、交流人口の増加を目指します。
-------	---

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	専門家派遣による商品開発等は目標どおり実施できたものの、地域主体の新規事業の認定には至らなかったため。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	中山間地ビジネス展開支援事業により検討を行った事業を、オクシズ元気ビジネス支援事業に認定して支援を行うなど、施策を効果的に連携させ、地域の産業振興を行うことができたため。
	令和3年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	オクシズ元気ビジネス支援事業の認定による支援は目標どおり実施できたものの、専門家派遣による新商品開発等は目標件数に至らなかった。コロナ禍の影響による今後の見通しが不透明なことにより、積極的な新事業展開を見込みにくかったことや地域の事業主体の多くが専門家派遣事業を利用したことがあり、利用希望がある事業者が少なくなってきたことがあげられる。
	令和4年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	派遣を実施したことによる新商品開発等・事業化件数は目標件数に至らなかったが、オクシズ元気ビジネス支援事業の認定による支援は、目標件数を大幅に上回った。専門家派遣を受けずに開始された事業により、地域の維持と振興に貢献できたといえるため。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率 (%)	評価	目標値の算出根拠
			1	2	0	0.0%	c	
成果指標	地域主体の新規事業認定件数	2件認定	2	2	2	100.0%	a	前身の「おらんとこのこれ一番事業」では、毎年度1件の新規認定を行っていた。元気ビジネス支援事業においては、外部からの新規参入を促していくため、年間2件を目標とする。 これまでの派遣実績件数をもとに、新商品開発等、事業化件数を5件とする。
			3	2	2	100.0%	a	
			4	2	5	250.0%	s	
			1	5	5	100.0%	a	
	派遣を実施したことによる新商品開発等、事業化件数	5件	2	5	5	100.0%	a	
			3	5	2	40.0%	c	
			4	5	1	20.0%	c	
			1					
指標以外の			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
オクシズ元気ビジネス支援事業	地域の資源を活用した「新たなビジネス」の実施及び準備にかかる経費に対する補助金の交付。	1	1	10,000	0	0	0.5	0.0	0.0	○
			2	8,000	0	3,995	0.5	0.0		
			3	3,641	0	2,600	0.5	0.0		
			4	9,000	0	7,751	0.5			
中山間地域ビジネス展開支援事業費	経営全般・マーケティング・IT分野等の専門家による、講演会・地域診断等の実施、地域資源を活用した産業を行う経営団体に対する上記専門家の派遣。	2	1	3,612	0	3,273	0.3	0.0	0.0	○
			2	2,920	0	1,480	0.3	0.0		
			3	2,920	0	444	0.3	0.0		
			4	2,520	0	308	0.3			
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

本施策は総合評価欄のとおり期待どおりの成果をあげることができたが、人口減少が加速し、コミュニティや生活機能の維持が困難となっている地域があるため、第4次総合計画の5大重点政策「オクシズの森林文化を育てるまちの推進」において、「オクシズにおける新規事業支援数」のR5～R8年度の目標件数を20件と掲げ、地域資源を活用した「新たなビジネス」の事業化を支援し、今後も地域の賑わいづくり、及び雇用と仕事の確保に向けて取り組んでいく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 中山間地振興課
	氏名	課長 太田 伸二

政策	4 多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します
----	------------------------------------

施策	2 地域資源を活かした交流の推進
----	------------------

施策の目的	オクシズは様々な地域資源を有していますが、トイレや交通手段等の基本的なサービスが不足しているため、オクシズに訪れる機会を失っており、その地域資源を十分に活かすことができていません。また、ユネスコエコパークに登録された南アルプスやその中山間地においては、さらにその魅力を体験できる取組を行う必要があります。そのため、トイレ整備やバス等の基本的なサービスの強化や環境を活かしたスポーツの振興に取り組み、地域資源をさらに活かすことで、オクシズへの訪問者増を図ります。
-------	--

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	夏の猛暑や週末の天候不順、新型コロナウイルスの影響など外的要因の影響が大きく、入込客数は目標値を下回ったが、各施設の積極的な取組により、目標に対して95.9%の入込客数を確保することができたため。
	令和2年度	—	理由	設定している指標「中山間地振興施設の入込客数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館等が行われるなどし、入込客数が減少したため適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	—	理由	設定している指標「中山間地振興施設の入込客数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館等が行われるなどし、入込客数が減少したため適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和4年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	設定している指標「中山間地振興施設の入込客数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者は減少しており、入込客数は目標値を下回ったが、一昨年度、昨年度よりは回復し、目標の75%を超える入込客数を確保することができた。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率 (%)	評価	目標値の算出根拠	
	成果指標	中山間地振興施設の入込客数	363,000人 (平成30年度の実績)	1	367,750人	352,616人	95.9%		a
2				372,500人	212,060人	56.9%	d		
3				377,250人	225,749人	59.8%	d		
4				382,000人	287,834人	75.3%	c		
1									
2									
3									
4									
1									
2									
3									
4									
指標以外の成果									

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
南アルプス周辺登山道整備事業	登山者の安全を確保する登山道、山小屋の修繕、工事等を実施 ・登山道修繕・工事（茶臼岳、聖岳、千枚岳 他） ・山小屋修繕（百間洞山の家、熊の平小屋、高山裏避難小屋、ウソッコ沢小屋）	2	1	7,000	0	4,478	0.3	0.0	0.0	△
			2	155,000	0	36,422	2.0	0.0		
			3	5,000	109,100	110,112	2.0	0.0		
			4	12,000	0	3,355	2.0	0.0	0.0	
オクシズプロモーションの推進	総合情報サイト「オクシズ」の運用及び、中山間地域の魅力情報紹介ツールの作成、広告・イベント出展等による地域情報の発信により、交流人口及び定住人口の増加を図る。	1	1	8,276	0	7,785	1.0	0.0	0.0	○
			2	8,522	0	4,085	1.0	0.0	0.0	
			3	9,316	0	6,078	1.0	0.0	0.0	
			4	60,766	0	58,089	1.0	0.0	0.0	
市営温泉浴場保全整備事業	経年劣化の進行による損壊や機能低下が発生している各温泉施設の改修を行い、利用者の安全性確保と利便性、快適性の向上を図る。 ・梅ヶ島新田温泉浴場改修	4	1	0	0	0	—	—	—	○
			2	4,400	0	4,400	3.0	0.0	0.0	
			3	17,700	0	3,010	3.0	0.0	0.0	
			4	198,000	10,208	10,208	2.0	0.0	0.0	
おもてなし環境整備事業	オクシズの観光トイレ整備に係る測量設計、工事 ①新規建設 1件 葵区有東木 ②既設改修 1件 葵区柿島	3	1	39,380	0	16,010	0.8	0.0	0.0	○
			2	6,875	43,020	49,895	2.0	0.0	0.0	
			3	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
			4	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

<p>市営温泉浴場や観光トイレ等の地域振興施設について、計画的な整備、改修を行うとともに、地域にある資源等の情報発信を積極的に行うなど、引き続き中山間地域のプロモーションを推進することで来訪者数の増加に務める。</p> <p>南アルプス周辺登山道整備事業 ・台風15号により、登山道へアクセスするための林道が被災したため、夏以降の修繕業務を中止した。令和5年度以降の復旧を見込みつつ、整備箇所修繕等対応していく。 オクシズプロモーション事業 ・総合情報サイト「オクシズ」の改修や、オクシズ公式Twitterの活用等質の高い情報発信を行うとともに、広告・イベント出展を通じて市内外に地域情報の発信を行い、中山間地振興施設の入込客数増加、指標の達成を目指す。 市営温泉浴場保全整備事業 ・梅ヶ島新田温泉浴場改修については、現在実施中であり、引き続き完成まで進捗管理を徹底する。その他老朽化した温泉浴場について、計画的な改修を行う。 おもてなし環境整備事業 ・引き続き観光トイレの計画的な整備改修を行い、来訪しやすい環境を整備していく。</p>
--

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

政策	4 多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します
----	------------------------------------

施策	3 安心・安全な地域環境の整備
----	-----------------

施策の目的	野生鳥獣の増加、生息域の拡大による農作物被害が問題となっており、被害防止には農地への侵入対策や捕獲を行う必要があるため、侵入防止柵の設置への補助、及び鳥獣被害防止についての勉強会等を実施し、農家の主体的な取り組みを支援します。 また、林地の崩壊や土砂の流出から、市民の生命・財産を守るため、治山事業を実施します。
-------	---

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 治山林道課
	氏名	課長 劔持 章

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「野生鳥獣防除面積」は、567haを実施し、ほぼ目標を達成することができた。 「治山工事の施工箇所数」は、11箇所を施行し、目標を達成することができた。 「南アルプスユネスコエコパーク地域内林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標を達成することができた。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「野生鳥獣防除面積」は、643haを実施し、ほぼ目標を達成することができた。 「治山工事の施工箇所数」は、11箇所を施行し、目標を達成することができた。 「南アルプスユネスコエコパーク地域内林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標を達成することができた。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「野生鳥獣防除面積」は、716haを実施し、ほぼ目標を達成することができた。 「治山工事の施工箇所数」は、目標値は11箇所であるが、令和3年度は昨年度見直した計画予定数の8箇所に対し9箇所を施行を完了することができた。 「南アルプスユネスコエコパーク地域内林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標を達成することができた。3件の成果指標から総合評価Aの構成要素は充足している。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「野生鳥獣防除面積」は、746haを実施し、ほぼ目標を達成することができた。 「治山工事の施工箇所数」は、目標値は10箇所であるが、令和4年度は昨年度見直した計画予定数の9箇所に対し8箇所を施行を完了することができた。 「南アルプスユネスコエコパーク地域内林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標を達成することができた。 3件の成果指標から総合評価Aの構成要素は充足している。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	575ha	567ha	98.6%	a	
野生鳥獣防除面積	398ha (平成29年度)	2	650ha	643ha	98.9%	a	野生鳥獣被害の対策として、最も効果を発揮する方法は、防除（防護柵の設置）であることから、従来どおり「野生鳥獣防除面積」を指標に設定するが、3次総前期において、当初の計画を上回る防除面積を達成したため、今後は飛び地となっている等の小規模な農地が主となるため、毎年70haを増加させることとし、目標値を設定した。	
		3	725ha	716ha	98.7%	a		
		4	800ha	746ha	93.2%	a		
		1	11箇所	11箇所	100%	a		
治山工事の施工箇所数	8箇所 (令和元年度)	2	11箇所	11箇所	100%	a	過去3年間の実績（H30年度：11箇所、H29年度：12箇所、H28年度11箇所） 3年間の平均：11箇所 直近3年間の実績（R1年度：11箇所、R2年度：11箇所、R3年度：9箇所、R4年度：8箇所） 【年間目標値】林地災害を防止するため、治山施設の設置数を3年間の平均値を目標とする。	
		3	11箇所	9箇所	82%	c		
		4	10箇所	8箇所	80%	c		
		1	0件	0件	100%	a		
南アルプスユネスコエコパーク地域内林道の管理瑕疵による人身事故件数	0件 (令和元年度)	2	0件	0件	100%	a	地域内林道18路線の管理瑕疵による人身事故件数	
		3	0件	0件	100%	a		
		4	0件	0件	100%	a		

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
野生鳥獣被害対策事業	①防護柵の設置に対する補助金交付、人里に野生鳥獣を近づけない草刈り・藪払いを行う緩衝地帯整備事業、被害防止目的捕獲許可や防除方法等についての勉強会の実施	1	1	141,309	0	132,934	3.0	0.8	0.0	◎
			2	151,434	0	110,988	3.0	0.8		
			3	150,625	0	111,692	3.0	0.8	0.0	
			4	125,529	0	102,266	3.0	0.8	0.0	
市単独治山事業	①治山工事 8箇所の実施	2	1	76,000	0	74,302	3.0	0.8	0.0	◎
			2	76,000	0	64,356	3.0	0.8		
			3	72,200	9,884	70,127	3.0	0.8		
			4	79,200	0	77,625	3.0	0.8		
井川地区林道及び東俣線ゲート管理	①井川地区林道管理業務の実施 ②井川地区林道の修繕及び崩土処理の実施 ③東俣線ゲート管理業務の実施 ④東俣線管理業務の実施	4	1	11,354	0	10,646	1.5	2.0	1.0	◎
			2	11,526	0	38,578	1.5	3.0		
			3	16,647	0	16,460	1.5	3.0		
			4	46,907	0	45,543	1.5	3.0		
飲料水供給施設等整備費補助事業	①給水区域外において、一定数以上の住民が自ら運営する飲料水供給施設の新設、改良、修繕に要する費用の7割を補助する。 ②産官学連携による小規模水道の調査・研究に参加。 ③台風15号の被災状況を全施設調査し、補正予算により断水した施設に対して9割の補助を実施	3	1	34,000	0	34,000	0.4	1.0	0.0	◎
			2	34,000	0	34,000	0.2	0.8		
			3	34,000	0	33,737	0.2	0.6		
			4	61,298	0	36,274	0.2	0.6		
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎: 計画より進んでいる、○: 計画どおり進んでいる、△: 計画より遅れている、-: 計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後の取組や方向性

本施策は総合評価欄のとおり、期待どおりの成果をあげることができた。

今後の取り組みとして、

- ・ 防除事業については、野生鳥獣被害が多く発生しているため、引き続きオクシズ地域への支援を強化していく。
 - ・ 林地の崩壊や土砂の流出から市民の生命財産を守るために、引き続き市が管理する治山施設を適正に維持管理していく。
 - ・ 南アルプスエコパークにおける登山、観光、環境学習、保全活動など、来訪者への安定した通行機能を確認するため、引き続き強化を図っていく。
 - ・ 飲料水供給施設等整備費補助事業については、施設の新設や修繕等に対する補助を実施するなど、期待どおりの成果をあげることができたが、昨今の物価高騰や災害増加により、整備費用が増加傾向にあり、補助要望額が予算を超える状況にあることが課題と捉えている。このため、当初令和12年度までとしていた計画の終期を令和15年度まで延長するとともに、第4次総合計画の施策である「安心して暮らし続けることができる環境整備」の一つとして本業務を位置づけ、今後も水の困りごとを解決し、オクシズ等の安心・安全な地域環境の整備及び地域の活力強化の推進に向けて、引き続き取り組んでいく。
- 上記の事業への取り組みにより、第4次総合計画の政策「オクシズの地域資源の保全と活用を推進します」について、引き続き多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 農地整備課
	氏名	課長 石田靖幸

政策	4 多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します
----	------------------------------------

施策	4 豊かな農林水産資源保護の推進
----	------------------

施策の目的	農地や林地など多彩な地域資源や農道・農業用水路等の関係施設の保全活動に地域ぐるみで取り組むことにより、農林業の持つ公益的機能を維持・向上させながら、地域の活力を強化していきます。
-------	---

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	理由
	A：施策の目的が達成されている。	成果指標である「農山村保全活動面積」については、農業従事者の減少や高齢化などにより令和元年度の目標値を下回ったが（916ha）、総合評価はA評価とする。
	B：施策の目的があまり達成されていない。	成果指標である「農山村保全活動面積」については、活動を行う農業従事者の減少や高齢化などにより、前年度を下回る実績値となっており、目標値を下回り（893ha）、総合評価はB評価とする。
	B：施策の目的があまり達成されていない。	成果指標である「農山村保全活動面積」については、活動を行う農業従事者の減少や高齢化などにより、前年度を下回る実績値となっており、目標値を下回り（897ha）、総合評価はB評価とする。
	B：施策の目的があまり達成されていない。	成果指標である「農山村保全活動面積」については、活動を行う農業従事者の減少や高齢化などにより、前年度を下回る実績値となっており、目標値を下回り（877ha）、総合評価はB評価とする。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	農山村保全活動面積	916ha (令和元年度)	1	950	916	96.4%	a	
		2	950	893	94.0%	b		
		3	950	897	94.4%	b		
		4	950	877	92.3%	b		
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
指標以外の成果								

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
多面的機能の維持・保全	①農業用施設の保全を実施する団体に交付金を交付 ②地域主体による活動を通じた維持管理を促進	1	1	41,454	0	38,152	0.9	0.0	0.0	○
			2	40,646	0	36,404	0.9	0.0	0.0	
			3	37,555	0	36,616	0.9	0.0	0.0	
			4	41,388	0	35,358	0.9	0.0	0.0	
環境保全型農業の支援	①有機農業など環境保全効果の高い営農活動を行う農業グループに対する国・県との協調助成（H24～）	2	1	3,100	0	2,736	0.3	0.0	0.0	○
			2	4,755	0	4,102	0.3	0.0	0.0	
			3	4,753	0	4,446	0.3	0.0	0.0	
			4	4,813	0	4,107	0.3	0.0	0.0	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

本施策は総合評価欄のとおり、活動を行う農業従事者の減少や高齢化などにより、期待を下回る実績値となっている。今後は、「第2次 静岡市農業振興計画」に「農山村の多面的機能の維持」を施策として位置づけ、農地や林地など多彩な地域資源や農道・農業用水路等の関係施設の保全活動に地域ぐるみで取り組むとともに、「環境保全型農業の支援」として有機農業など環境保全効果の高い営農活動を行う農業者に対して引き続き支援を行い、地元の各活動団体を支援や農業分野における環境負荷の低減を図る。